

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290600034		
法人名	社会福祉法人 いわみ福祉会		
事業所名	グループホーム モモ(一番街)		
所在地	島根県江津市敬川町1230番地1		
自己評価作成日	令和1年12月23日	評価結果市町村受理日	令和2年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和2年1月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GHモモは行動理念‘利用者・家族との繋がり、地域との連携を大切に笑顔ある居場所を作ります’を掲げ日々利用者一人一人の思いにしっかり寄り添い、楽しく・安心に心身ともに活性化する生活を送って頂けるようお手伝いをさせて頂いています。常に個々の思いに寄り添いながらゆっくり関わりを持つことで、一人一人の生活スタイルを把握し、なるべくその人らしい生活が維持できるよう配慮しています。モモでは毎月の行事にも力を入れ利用者の意向を聞きながら計画し楽しみを持つことで生活に張りが持てるよう支援しています。家族様・地域の方々との協力を頂き夏祭り開催や文化祭参加等により開かれた施設作りにも取り組んでいます。職員は認知症介護実践者研修等の外部研修を積極的に受講し、また内部研修の内容も充実させ職員全員が専門性を持ってケアできるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から入った住宅地や畑に囲まれた静かな場所に、土地の傾斜を利用して2つのグループホームと小規模が連ねて建っている。2つのユニットには違いがあるものの移動に十分な広さがありそれぞれ落ち着いた空間が確保されている。母体の法人が近くにあり歴史もあるため、地域との交流も盛んで双方の行事に行き来したり、地域の方のボランティア協力も積極的に行われている。入所者も職員も大半が女性で季節を感じさせる花などの飾り方にも細かい配慮が伺えた。母体が大きくデイや小規模などを経験した職員を中心に、毎日担当が工夫をして軽運動や口腔体操などが行われホールからは元気な声が聞こえていた。今後に於いても研修を重ねることで、個別ケアの充実にも努めると共に、専門施設として地域貢献を続けていただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年に一度法人理念研修を行っており、職員会議等でもGHの行動計画を確認し合い実践に繋げている。	年度当初に法人全体での異動に伴い数人が入れ替わったが、法人の理念は共有できており、全体会議の場等でグループホーム独自の理念について話をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催される文化祭やお祭りに声をかけて下さり参加させて頂いている。また施設内行事にはボランティアとして参加して下さり交流を密にしている。	春の桜まつりや秋祭りには参加を続けている。まき作りやひな祭りにはお寿司作り、夕涼み会には売店を出してもらうなど地域の協力を得て行事開催に繋げている。中学生の職場体験、看護学生や介護職員の実習等の受け入れも積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトになっている職員が企業などへ行き、研修会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い報告をおこなっている。また推進委員の方々から頂いた意見に耳を傾けサービス向上に繋げている。	地域からは民生委員やコミュニティ関係団体の代表者等に包括職員、福祉関係者、家族代表の参加を得て定期に開催。入所者状況や行事、研修等の報告を行い、意見交換に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員のメンバーになって頂いているので、会議等で意見を頂き協力関係を構築している。	運営推進会議には包括から毎回参加を得ており、市内の他のグループホームの様子や地域の問題点等を聞いたり、質問事項に返答してもらうなど協力的。生活保護担当者とは訪問を含め情報交換を密に行うようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危機管理委員会を立ち上げており委員会のメンバーを中心に定期的に会議や研修の場において対策等を周知するとともに職員の意識調査も行い、身体拘束をしない、より良いケアの実現に向けた取り組みを行っている。	虐待を含めて研修に参加したり施設内でも研修を実施している。転倒等の事故やヒヤリハットの事案が出た場合もその都度話合うようにしている。安全に動けるよう物の配置を考えたり拘束にならないよう検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	危機管理委員会のメンバーを中心に不適切ケア防止目標を掲げ全職員で取り組んでいる。月末には自身の振り返りをアンケートにて行い、より良いケアに向けた取り組みをしている。施設内部等でも研修行い学ぶ機会を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を施設内で行っている。実際成年後見や日常生活自立支援などの制度を利用されている利用者もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様には文書・口頭にて時間をかけて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には近況報告を行い、その際要望等聞くようにしている。意見があった際は話し合いにて改善すべき点など話し合いを行っている。	家族会を年1回開催し、グループホームの便りを年2回送っている。行事等の写真は面会時にいつでも閲覧できるようにしており、電話等で様子を伝えるとともに意見を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや職員会議等にて職員から意見を聞き、リーダー会議にて改善すべき点など話し合いを行っている。	普段の会話の中ではいろいろな意見を聞く場合があるが、会議では出にくいこともあるので、管理者はできるだけ情報をキャッチするように心がけている。年1回自己評価を実施しているのもその際に個人的に面談の機会を持つ予定としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度自己申告制度実施し職員が働きやすい職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望を取り入れ外部研修に参加したり、会議等で職員に伝達する事でそれぞれが知識を高めケア向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や部会に参加することで他施設職員と情報交換ができ、より良いケアに繋がるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のペースに合わせてゆっくりと関わりながら信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が話しやすい雰囲気作り、安心して頂けるようしっかりと思いを受け止め信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族様からの要望にしっかりと耳を傾け、現在の状況に合った支援が提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること・好きなことには積極的に参加して頂き、またできないところは一緒に行えるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族様との関係を大切にし、細かいことでも連絡を密に取り合っている。受診や外出・外泊、行事等の参加も呼び掛け絆が途切れないよう努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室などを利用したり、知人や友人が面会に来て頂けるような雰囲気づくりをし、関係が途切れないよう支援している。	家族対応の方もあるが、職員が付き添って地元美容院へ出かけている。月に1回は車でドライブに出かけ懐かしい場所や家など、記憶に残る場所を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で作業等行って頂いたり、時には外出やレクリエーションなどで交流を図り、コミュニケーションが取れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談・支援を求められた際はできる限り応じていきたいと思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ個別の時間を作りながら雑談や作業している中からでも思いや希望を聞ける工夫をしている。困難な方についてはしぐさや表情から思いをくみ取る努力をしている。また家族様からも聞き取りを行っている。	普段の会話の中から聞かれた思いはケース記録に残すようにしている。小さいころの記憶に残っていることについても家族に確認し職員間で共有するようにしている。	残存能力を生かしてより充実した個別ケアに繋がるよう検討いただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用しながら本人・家族様からお話を聞かせて頂く機会を持ち把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりや様子観察などから状態を見極めるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週1回のミーティングでケアの実践と振り返りを行っている。その際職員が意見を出し合いました、利用者や家族の意見も反映し現状に即した計画を作成している。	ミーティングで担当職員を中心に、サービス内容を意識しながらケアの振り返りを行っている。家族を含めた関係者で担当者会議を開催するようして、変化に沿った計画になるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りノートに細かく記録を残し、また口頭でも申し送りしながら情報共有している。それらを元に介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向になるべく添えるよう柔軟な対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	文化祭などで地域に出かけて行き、昔馴染みの方々と交流をし楽しみが持てるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向に沿って対応している。協力医の往診は2週間に1度ありその際状態の報告をしている。	月に1回から2回家族対応で今までのかかりつけ医を受診する場合や、定期的往診可能な事業所の協力医に変更も可能で、入所時に選ぶことになっている。協力医の場合は休日、夜間等の緊急時にも支持が得られるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者のちょっとした変化に気づく目を持ち必ず看護師に報告・連絡・相談するよう徹底し、即座に適切な対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族様や病院関係者と密に情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様とは十分に話し合い事業所としてできる限りのことはしていきたい。本人の思いに寄り添い主治医との連携を図りながら支援していきたい。	今まで看取りを行ったケースはない。設備面や看護師等の体制面も整いにくいこともあり、積極的に進めてはいないが、主治医の指示のもと話し合いの機会を持ちながら進めることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急処置については毎年繰り返し研修を行い全職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を実施し、緊急時に対応ができるようにしている。災害に関しては地域住民、市役所職員からの意見を頂いたり、協力要請をお願いしている。	山や川から離れており災害には遭いにくい場所の為に火災中心に日中、夜間の想定で訓練を実施している。比較的近い所に母体施設もあり、近距離に在住している職員も多く協力が仰げる。施設回りには防犯カメラを設置したり警備会社とも提携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に敬意を忘れないよう言葉使いや声のトーンに気を付けながら声掛けを行っている。また、一人一人が大切にされている部分を理解しながら対応するように配慮している。	接遇研修を実施し常に意識を持つようになっている。狭い空間の為大きな声をすると怒っているように感じるので、声の大きさには特に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表しやすいような雰囲気作りをして思いが引き出せるようにしている。また、本人が自己決定できるような声掛けを行ったり、思いを確認するように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の思いを聞いてなるべく希望に添えるよう対応している。その日に対応が難しい場合は本人の了解を得、別の日に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は自分で好みの服を選んで着て頂いている。外出や行事の際も声掛けをして、自分なりのお洒落ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には本人の好きなメニューを聞いて提供している。野菜の皮をむいて頂いたり、盛り付け、お盆拭きや食器洗い等一緒に行ってもらっている。	2つのユニットで2、3品ずつ分けて作っている。積極的に手伝う方には、座ってできるようにしたり、包丁を使う場合は注意深く見守ったり、盛り付けには見本を用意するなど一緒にかかわれるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせて食事量を調整しており、栄養の足りない方には補食対応等状況に応じて対応している。水分量もチェックし、好みの飲み物など合間で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし口腔ケアを行って頂いている。磨き残しのある方は介助したり、口臭の強い方はマウスウォッシュでうがい等対応し状態把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、時間誘導や声掛けを行っている。	共同トイレを使用しているため、誘導介助しても1度は一人になれるよう外に出るようにしている。紙パンツやパットも個々に合わせて使い分け不快にならないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給を行いながら、散歩や運動を取り入れている。毎日牛乳やヨーグルトを提供して便秘になりにくいよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせているが、週3日は入浴できるよう対応している。また時間帯も希望に添えるように対応している。	1日おきで週3回の入浴回数を確保するようにしている。大き目の家族浴槽で、できるだけ中に入りゆっくり温まるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを理解して、入眠環境を整えたり、入眠されるまでの安らげる時間・空間づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送り等で情報共有し、薬の内容の理解、状態変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人が興味の持てることを提供している。行事や外出、散歩等取り入れ楽しみを持てるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物外出を本人の希望を聞いて行っている。また地域の行事に参加している。遠方や家族様の協力が必要な外出の要望があれば、本人の思いを家族様へ代弁してお伝えしている。	外出行事は計画的に行われているが、普段は近くのコミュニティの行事に出かけたり、施設回りを散歩するようにしている。2つのユニットの間のベランダや裏庭にも出られるようになっており、気候のいい時期には外でお茶を楽しめるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物などに出かけた時に本人の希望の物にお金が使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと言われた際に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	場所がわかりやすいように表示を行い混乱が無いようにしたり、光や音に敏感な方がおられる為、光の調整や物音への配慮を行っている。季節を感じて頂けるよう季節の花を飾ったり、月ごとの飾りを皆さんと作成し飾っている。室温計で温度や湿度をこまめに調整し過ごしやすい環境作りに努めている。	施設前の道路は交通量が少なく騒音がなく静か。デイルームは天井が高く落ち着ける空間。窓から外の景色がよく見えるが、見えすぎて落ち着かない方もあり、障子の開け閉めで調節している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂とソファースペースとで活動と休息の場のメリハリをつけている。また一人でゆっくり過ごされたい時には離れた場所でゆっくり過ごせるように一人掛けのソファを設置し空間づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には自宅で使用されていたもの等なるべく馴染みおある物を持参して頂くようにしている。また写真や人形・観葉植物等本人の好みのもを置き、心地よく過ごせるよう環境づくりをしている。	各部屋にタンスや衣装ケースが置かれている。小テーブルやイス、テレビ等を置き、1人で部屋に居るときもくつろげるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活維持の為必要箇所には目印をつけて工夫している。居室内に設置してある手すりの他、その方に合わせ安全に生活できるよう家具の配置やフロアマットの設置など環境整備を行っている。		